



一心に聞き入る

朝貝 親子のコミュニケーションの手立てとして「家庭読書」が打ち出されてきている。よく私が読んでいた本を置いておくと、自然と娘が手にとって読んでいくということがあった。年齢が進むにつれて親子のふれ合いは難しくなっていくが、家庭読書を通じて親子共通の話題ができる。時間がなくても、学校で読み聞かせをしてもらった本について話すなど、いくらでも手だてはある。実際に読めるかとは別に、家庭読書の日になったら、「今日は本を読もうかな」という気持ちになることが大事である。ひとつの形にこだわらず、読書に自然と意識が向くよう

荒木 小さい頃、祖母に読み聞かせをしてもらった覚えがある。何を読んで読むかは覚え

竹中 博物館でも読書とつなげていこうという動きがある。ギャラリートークなど、本と結びつけるような取り組みができていか検討している。

教育長 読書と何かをリンクさせ、PRしていくことも効果的だ。

古屋 読み聞かせ



中学校でのボランティアによる読み聞かせ

ている。下諏訪町の広報は、住民を巻き込んだ内容になっていっているので面白い。やはり住民を巻き込んだPRが大事だ。

また、本日ここに来る間に、中学生から高校生の女の子三人組と会ったら向こうから率先してあいさつをしてくれた。以前から、町を歩いていて自然と出る挨拶が多くなったなと感じていた。読書についても同じようになればいい。

教育長 読書もあいさつと同じように上から押し付けるのではなく、自然にでてくるのが大事だと感じている。本を読んでもみたいという思いが、自然に湧き出るような風土を町全体で盛り上げていくことだ。

を通じて地域の人々が、それをきっかけに学校に入ってくることは、子どもたちにとって非常にいいことだ。地域のみんなが、自分たちのことを見守ってくれていると子どもたちが感じることに成果がある。自然と挨拶ができるという風土づくりに繋がるのではないかと。

小口 社会教育委員という立場としてどのように広めていけるかを考えていた。団体には所属していなくても、個人としては日常の様々な繋がりを生かして、話題にすることなどの活動はできる。町の学校・保育園にはPTA連合があるが、その活動の基礎として、親子の繋がりを深めるためという大前提がある。そういつた中で町全体の共通意識を高めることができるし、何かいい案があれば浸透力も増す。

教育長 今小口委員から、個人として様々な場面で話題を提供することで、広がり期待できるのではないかといいこと。そして組織全体としては、例えば今回根っこになっているPTA連合会の人たちのモチベーションを、いかに高めていけるかということがひとつのポイントになってくる。それでは、今までの話をふまえた上で、教育委員の皆さんからご意見をお伺いしたい。

上野 「内側から浸透していくことを考えた」という言葉が心に響いた。また先ほど荒木委員が言われたように、読書との関わりは読書そのものだけではなく、人の温かさであり、挨拶にもつながるということ。なんとかいい方向につなげたい。

事務局 読書から挨拶へとつながり、この活動が地域の人々との交流を推進するようになることを強く期待している。PRもクローズアップだけではなく、個人のつながりで話題にするなど様々な形でPRができれば。社会教育委員は青少協、博物館、体育など様々な機関の代表者が集まっている。それぞれの機関でも、取り入れてもらう意見がたくさん出た。町全体で連携して活動を盛り上げていきたい。

高橋会長 保育園から小中学校、PTAから一般の人々まで巻き込んでの活動だった

高木 読書を通じて家庭で親子間の絆を深めていることを感じる。家庭読書の実施率が50%ということだが、様々な実状がある中でいい数字だと思う。また中学生への読み聞かせについては、一緒に読むといったことに抵抗があるかもしれないが、親が率先して本を読むその姿を見せるなど、子どもに自分も読書をしてみようという気持ちを起こさせることが大事。町には図書館、保育園、学校、そこに地域の人々のボランティアも入っており、読書における環境は大変充実している。引き続き、読書の良さを広めて深く定着してほしい。

依田 私自身三年前くらいにPTA連合の役をやっていた時に、家庭読書のPRを頼まれた。その当時の取組はPTA連合だけの呼びかけだけで留まっていた。P連では役が一年で変わってしまったため、引き継ぎなどが難しい。そこに社会教育委員をはじめ様々な団体がいるような形でPRしていくことが大事だと感じた。

また小学校高学年や中学生の家庭読書は抵抗があるかもしれないが、保育園では抵抗がない。小さい頃から風土をつくっていくれば、五年十年と長い目で見たときに、自然と身に付いているのかなと思う。目に見える成果はすぐには分からない

ことがよかったと思う。しかしそれは出発点であり、これからどのように継続、発展していけるかが勝負になってくる。今後の方向を定める貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。



教育委員会は主として学校の教育活動を、社会教育委員会は、主として青少年および成人に対する組織的な教育活動をつかさどっています。次代を担う子どもたちを育てるという点では、車の両輪のような関係であり、両者の間ではこのように意見交換を行っています。